

世 相 語 の 研 究

——昭和52年から昭和61年に焦点をあてて——

久 保 ひ と み

目 次

はじめに

1. アンケートの目的と方法

- (1) アンケートの質問内容
- (2) アンケートの目的
- (3) 回答者・実施日

2. アンケート結果の分析

- (1) 知名度
- (2) 使用度
- (3) 定着度
- (4) 発生理由・流行の経緯と背景

3. 世相語について—アンケートを通して—

おわりに

<資料>

はじめに

平成4年の流行語大賞は「ねえチューして」に決まった。このように、毎年ごとに新しい語が出てくるが、果たしてこの語は、私達に定着するのであるだろうか、それとも一時的なもので、すぐに忘れられてしまうのかと疑問に思い、卒業論文で取り上げ、研究してみることにした。

そこで、昭和52年から61年の10年間の世相語25語に焦点をあてて、その語の知名度、使用度、定着度、発生理由・流行の経緯と背景を問うアンケートを実施した。そのアンケート結果を基に、世相語について考えていきたい。

1. アンケートの目的と方法

(1) アンケートの質問内容

最後の<資料>の項目に掲げる。

(2) アンケートの目的

世相語25語に対して、質問項目①・②・③で、知名度・使用度・定着度をそれぞれ%で表して、考察していく。質問項目④で、発生理由・流行の経緯と背景を探っていく。

(3) 回答者・実施日

本論文を書くための資料として行ったアンケートの実施日、回答者は次に記すとおりである。

I 若者(女)：比治山女子短期大学国文科1・2年生185名

平成4年11月30日～12月5日

II 若者(男)：広島大学工学部四類1～4年生100名

平成4年12月6日～10日

III 中年層：両親・両親の友人・私の友人の両親100名

平成4年12月4日～11日

なお、広島大学工学部四類のアンケートをとるにあたり、広島大学工学部の松村博丈君に、また、中年層のアンケートでは、八幡地区ソフトバレークラブ等、多くの方に御協力をいただいた。

2. アンケート結果の分析

(1) 知名度

ここでは、世相語25語に対して、質問項目④知っていますか で、はい・いいえで答えてもらい、その結果を%で表し、考察していく。アンケート結果は表1のとおりである。

<表1>

	I 若者(女)		II 若者(男)		III 中年層	
	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)
1. 記憶にございません	97	3	100	0	98	2
2. 落ちこぼれ	98	2	98	2	100	0
3. 普通の女の子に戻りたい	95	5	75	25	97	3
4. なんちゃって	98	2	100	0	100	0
5. 窓際族	97	3	97	3	100	0
6. ウサギ小屋	67	33	73	27	100	0
7. 口裂女	96	4	100	0	98	2
8. エガワる	8	92	12	88	53	47
9. カラスの勝手	98	2	95	5	96	4
10. それなりに	91	9	73	27	97	3

11. 熟 年	96	4	87	13	100	0
12. ハチの一刺し	40	60	51	49	89	11
13. ぶりっ子	100	0	98	2	100	0
14. ネクラ, ネアカ	100	0	95	5	100	0
15. 軽薄短小	9	91	27	73	72	28
16. 機長！何をするんですか	22	78	49	51	74	26
17. 気くぱり	87	13	90	10	98	2
18. いいとも	100	0	100	0	100	0
19. ㊦ ㊧	64	36	61	39	49	51
20. くれない族	61	39	41	59	80	20
21. イッキ！イッキ！	100	0	100	0	100	0
22. 私はコレで会社を辞めました	100	0	98	2	100	0
23. プッスン	99	1	98	2	100	0
24. 新人類	97	3	97	3	100	0
25. なんぎやなあ	64	36	76	24	80	20

ほとんどの項目が知名度が高いことが分かる。だが、世相語6・12・15・16は、社会面からの記事による語であるので、若者よりも中年層が「知っている」と答えている。今回若者の対象にした大学生の年齢が、その語の発生の際は小学生低学年と、社会に興味を持つ人が比較的少ないので、この結果がでたのであろうが、現代、若者は、TV・ワイドショーには詳しいが、社会面には無縁と言われている中、ひょっとするとこの傾向は、その兆候であるかもしれない。

この結果で驚いたことは、中年層がほとんどの項目を知っていることである。特に世相語19より以下は、若者向けの項目であり、「はい」と答える人が少ないと思っていた。やはり、社会に出る者は、より多くの知識が必要なのであろう。

(2) 使用度

ここでは、世相語25語に対して、質問項目㉔使ったことがありますか で、はい・いいえで答えてもらい、その結果を%で表し、考察していく。アンケート結果は表2のとおりである。

<表2>

	Ⅰ 若者(女)		Ⅱ 若者(男)		Ⅲ 中年層	
	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)
1. 記憶にございません	34	66	36	64	36	64
2. 落ちこぼれ	79	21	70	30	78	22
3. 普通の女の子に戻りたい	9	91	0	100	4	96
4. なんちゃって	73	27	51	49	57	43
5. 窓際族	21	79	20	80	49	51
6. ウサギ小屋	23	77	19	81	66	34
7. 口裂女	80	20	63	37	40	60
8. エガワる	0	100	0	100	9	91
9. カラスの勝手	51	49	34	66	47	53
10. それなりに	74	26	56	44	83	17
11. 熟年	37	63	32	68	79	21
12. ハチの一刺し	2	98	7	93	13	87
13. ぶりっ子	94	6	69	31	74	26
14. ネクラ, ネアカ	75	25	78	22	85	15
15. 軽薄短小	0	100	2	98	49	51
16. 機長!何をするんですか	3	97	7	93	6	94
17. 気くばり	79	21	54	46	83	17
18. いいとも	74	26	46	54	78	22
19. ㊦ ㊧	33	67	17	83	19	81
20. くれない族	3	97	2	98	17	83
21. イッキ!イッキ!	89	11	92	8	66	34
22. 私はコレで会社を辞めました	19	81	19	81	43	57
23. プッツン	83	17	66	34	79	21
24. 新人類	56	44	49	51	72	28
25. なんぎやなあ	13	87	27	73	17	83

全部で項目25語あるが、若者・中年を総合的に見てみると、知っているのは、12語である。約半分の語しか一般的に使用していないことが分かる。使用度は、少ない。

次に、世代別に対比してみると、若者に比べて、中年層の方がはいと答えた割合が多い語は、世相語5・6・11・15・22・24だ。これらの語は、社会的な言葉も含まれているが5・22・24の世相語のように、中年層にとって実感する語も入っている。おもしろい結果がでたのではないかと思った。

男性と女性で対比してみると、女性の方が使用度が高い。原因として、一般的に女性の方が、雑誌等で、常に流行を追いかけるという性質が高いためと考えられる。

(3) 定着度

ここでは、世相語25に対して、質問項目⑩最近、聞きますか、または使いますか で、はい・いいえで答えてもらい、その結果を%で表し、考察していく。アンケート結果は表3のとおりである。

<表3>

	Ⅰ 若者(女)		Ⅱ 若者(男)		Ⅲ 中年層	
	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)	はい (%)	いいえ (%)
1. 記憶にございません	58	42	46	54	52	48
2. 落ちこぼれ	54	46	32	68	36	64
3. 普通の女の子に戻りたい	5	95	0	100	8	92
4. なんちゃって	26	74	51	49	57	43
5. 窓際族	12	88	7	93	49	51
6. ウサギ小屋	16	84	17	83	23	77
7. 口裂女	19	81	5	95	2	98
8. エガワる	1	99	100	0	100	0
9. カラスの勝手	2	98	0	100	4	96
10. それなりに	62	38	32	68	59	41
11. 熟年	38	62	24	76	52	48
12. ハチの一刺し	3	97	0	100	2	98
13. ぶりっ子	31	69	9	91	3	97
14. ネクラ、ネアカ	36	64	27	73	51	49
15. 軽薄短小	0	100	2	98	17	83
16. 機長!何をするんですか	0	100	0	100	2	98

17. 気くばり	67	33	29	71	51	49
18. いいとも	66	34	56	44	74	26
19. ㊦ ㊧	10	90	7	93	4	96
20. くない族	27	73	2	98	2	98
21. イッキ!イッキ!	63	37	66	34	49	51
22. 私はコレで会社を辞めました	6	94	5	95	10	90
23. プッスン	36	64	22	78	47	53
24. 新人類	31	69	17	83	62	38
25. なんぎやなあ	13	87	19	81	11	89

若者・中年層に定着したと思われる語は、世相語4・10・18・21のたった4語である。世相語19より以下はすべて、当時、流行語大賞に選ばれた語にもかかわらず、世相語21の1語しか定着していない。定着度16%という低い結果がでたので、驚いた。原因は、その語の流行の時期が過ぎ去った時、その語を口にする人がいかにも無神経にみえたり、流行おくれであると思う気持ちの表れだと考えられる。つまり、世相語の流行は、きわめて、一時的で一過性である。

(4) 発生理由・流行の経緯と背景

1つ1つの項目をアンケートを基に考察していく。

1の記憶にございませんは、若者・中年層共に、大半が「証人喚問」と答えた。昭和51年のロッキード事件の時、小佐野賢治氏が証人喚問の際に言った語である。この事件は、語の歴史からみても、まさに千両役者の揃い踏みといった感がある。

2の落ちこぼれは、若者は「母親」、中年層は「マスコミ」の回答が多い。この語が一般化するにつれ、受験を案ずる母親達が増え、塾産業、教育産業が急成長を遂げた。

3の普通の女の子に戻りたいはキャンディーズの引退宣言の名ぜりふである。両世代の大半がその回答であったが、若者は知っているだけであり、当時のキャンディーズを懐しがる人は、ほとんどいない。

4のなんちゃってでは、若者は、ほとんど世相語としてとらえてないが、中年層は、「なんちゃっておじさん」と答えている。昭和53年ラジオの深夜番組で、「ヤクザにからまれ、わんわん泣いていた四十男が、ヤクザが去ると『ナンチャッテ』と頭の上で輪をつくり、笑わせた」という話が放送されて、ウワサに。この語は、現在も真剣さを照れ隠す表現として使用されている。

5の窓際族は、若者は「窓際のトットちゃん」で発生したと思っているが、実は、中年層が答えたとおり、昭和52年6月11日の北漁道新聞のコラムで「窓際おじさん」として登場させた。こうした風潮には、「ますます中高年が雇用調整のターゲットにされる」といった批判もされた。

6のウサギ小屋は、昭和54年、ECが「日本人はウサギ小屋とさして変わらない住宅に住む働き中毒」と発言。中年層と20%の若者が、こう答えたが、中に「飼育」と答えた若者もいた。

7の口裂女は、若者は「噂」、中年層は「子供」と回答した。噂の発生地は岐阜県であり、次第に日本中を駆けめぐった。ナンセンスな話なのだが、子供達は信じきっていた。結局正体不明のままウヤムヤに。

8のエガワのは、ほとんど無回答であった。昭和53年、江川卓氏の阪神・巨人間のトレード事件を基に、「ダダをこねて、わがままをとおす」ことを意味する。

9のカラスの勝手は、大半が「8時だよ！全員集合」と答えた。「七つの子」の替え歌である。この傾向は、「自分勝手な時代の反映、反抗的で投げやりな現代っ子の自己主張では」という分析さえされるほどであった。

10のそれなりには、若者・中年層共に「日常会話」か「CM」と答えた。世相語の「それなりに」は、昭和55年のフジカラーのCMから発生。この語が大当たりしたのは、国民の大半が持っている「中流意識」にうまくマッチしたところに原因があると思われる。

11の熟年は、「雑誌」が多かった。豊かな人生経験を持ち、円熟してきた世代という意味だが、シルバー産業狙いのCMが作りたいかにも美辞麗句ふうの語だ。

12のハチの一刺しは、若者はほとんど無回答。中年層は「榎本三恵子さん」をあげた。ロッキード関連事件で、田中側のいい分を覆し、「ハチは一度刺したら死ぬといいますが、私もまた同じ気持ち」と語る。このあたりから女はコワイという意識が生まれた。

13のぶりっ子は、両世代「松田聖子さん」と答えたが、使い始めは、山田邦子さん。本音の時代といわれる反面で、若い女性のぶりっ子的なパターンが目立つ時代であった。

14のネクラ・ネアカは、「TV」と答えている。タモリさんが九十九一氏をネクラと評してから広まった語だ。人間を単純に2つの型に裁判してしまうことで、深刻なことや真剣になることも拒否する現代の風潮をよく表す語だ。

15の軽薄短小は、若者は全員無回答だが、中年層は「新聞」と答えた。「日経ビジネス」の造語で「時代は、軽・薄・短・小に向かう」と言い、軽量化時代の到来宣言だった。

16の「機長！何をするんですか」は、中年層だけ「飛行機事故」と回答した。昭和53年2月着陸寸前の日航機が羽田沖に墜落。その時、片桐機長に対して、隣にいた石川副操縦士が言った語である。

17の気くばりは、「なんとなく」が一番多かった。世相語の気くばりは、鈴木健二氏の『気くばりのすすめ』から派生。こんな言葉がはやるのは、日本社会の人間関係が荒廃し、ほとんど病気になることへの証明ともいえよう。

18のいいともは、「笑っていいとも」と全員答えた。司会者のタモリさんの「～してくれるかな」の問いかけに「いいとも」と答えるのが受けて、日常会話にも転用された。

19の㊦、㊧は、「雑誌」が一番多い。『金魂巻』から生まれた語で、人気職業を㊦（金持ち）と㊧（貧乏）に分類した本である。なぜか中流の人々に多く読まれた。

20のくれない族は、若者は、TBS TVドラマ『くれない族の反乱』と答えたが、中年層は、大半が無回答。夫が構ってくれないという主婦の不満を表す語として流行した。

21のイッキ！イッキ！は、「コンパ」「居酒屋」「とんねるずの歌」という回答だった。イッキイッキの音頭に合わせて、一気に酒を飲みほす「イッキ飲み」が大学生の間に流行。コンパ等、なくてはならない存在に。

22の私はコレで会社をやめましたは、両世代、「CM」と答えた。「禁煙パイポ」のTVCMから流行。とぼけた味のオチが受けやすい。

23のブツンは、「藤谷美和子さん」「石原真理子さん」の名が出たが、片岡鶴太郎さんが多用して流行。脳の回路や神経が普通とは違うことを意味する。

24の新人類は、「雑誌」が多かった。昭和35年以降生まれの若者たちの総称。メディア体験に富み、コンピューターに強く、感性豊かで好き嫌いがはっきりしている、プレッシャーに強いなどの反面、移り気で行動がマニュアルどおり、思考回路がデジタル的・努力嫌いの思いつき型などの特徴をもつとされる。

25のなんぎやなあは、「祖母」と答えた人が多く、驚いた。大阪弁であるのだが、辛坊治郎・森たけしアナウンサーが、「ズームイン朝」での口ぐせがヒットした。吉本興業など、大阪弁が注目されている時期であった。

以上の結果から、世相語は、何かの事件・事柄に大きく結びついていて、語だけが一人歩きすることは、ほとんどないことがわかる。

3. 世相語について—アンケートを通して—

世相語とは、世のありさまを表す語。それぞれの時代の人心の機微をみごとに上げる語である。人々の、時代、世相に対する感慨を一語で代弁している。つまり、新語や流行語、風俗語、若者のキャンパス語・失語、放言、名言、迷言などの語録、新聞や雑誌などの見出し、マスコミに登場した人目をひく言葉などを総合して言う語である。この世相語は、大別して2つに分けられる。第一は、社会風俗や時代・世相に対応して批判的意味をもつもので、活字マスコミを発生源とする。第二は、芸能タレントのギャグやコマーシャルなどに対するナンセンスな語であり、口語マスコミを発生源とする。

世相語をアンケート結果から分析してみる。一般に、人びとが流行を追い求める心理にはそれを取り入れることによって自己をきわだたせ、自己を誇示しようというところがある。いわゆる差別化の欲求である。と同時に、これは、時流に遅れまいとする同調性への欲求でもある。私達はこの社会で他者とのかかわりあいの中で流行に関与している。少なくとも社会全般の流れにとり残され孤立することは避けたい。そこで、他の人の行為を模倣し、社会に適応しようとする。時流に追従し同調していくというのは、一見、差別化の欲求とは反するように見えるが、あえて時流に追従せず、その結果として時代遅れになるのは耐えられない。

この流行に対する心理は、言葉の流行にはどう働くのであろうか。アンケート結果によると、流行への追従、同調の度合はゆるい。今現在、流行している語を知っているというのは、時代から遅れていないという確認程度で、積極的にそれを口に出して言って自分を誇示しようということはない。服装の流行のように、最近のファッションを身につけて誇らしさを感じるということはない。

また、服装の流行がある周期で反復再生するのに対して、言葉の流行は1回きりである。しかも多くは、短期間の流行にとどまり、短期間に急速に広まったかと思うとたちまち飽きられ、泡沫のように、はかなく消えていく。その流行の時期が過ぎ去ったとき、その語を口にする人がいかにも無神経にみえる。流行はきわめて一時的で一過性である。その傾向は、中年層に比べて若者の方が強いようである。

世相語の発生パターンは、以下の7とおりに分類できる。

- 1 為政者が大衆操作のためにはやらせた
（例）欲しがりません勝つまでは
- 2 そのパロディー
（例）小さな親切大きなお世話
- 3 映画、テレビ、小説、マンガ、CM
（例）くれない族・私はコレで会社を辞めました
- 4 庶民の実感にマッチした
（例）ウサギ小屋
- 5 著名者の名（迷）言から
（例）普通の女の子に戻りたい
- 6 有名事件、社会現象から
（例）記憶にございません、ハチの一刺し、エガワる
- 7 若者の新感覚が生み出した
（例）ぶりっ子、ウッソー

言葉の流行は、偶発的である。気まぐれである。そして、ある言葉が流行しなければならぬ必然性はない。流行させようと思って流行するものでもない。言葉が流行することは、単に造語者によって生まれるものではなく、それに感応した多くの人々の支持によっておこるのである。造語者と同世代人との合作になるものと言ってよい。ある言葉に不意打ちのごとく大衆によって生命を与えられたものなのである。

おわりに

この「世相語の研究」をしてみても、日本語は、奥が深いと感じた。時代と共に言葉も目まぐるしく動いており、生きているという印象を持った。アンケートで世相語25語を調べるにつれて、語が衰退しているのがあらためてわかると、さみしさも感じられた。

アンケートによって、自分なりに、世相語というものを、ほんの少し掴んだ気がする。私達が現在、いや一生使っていく日本語を見直すことのできるよい機会だったと思う。これからも、動き続ける日本語に興味をもち続け、常に世相を感じていきたい。

最後に、アンケートに回答して下さった多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

参考文献

- ・『最近日本語事情』 稲垣吉彦 1983年12月1日 大修館書店
- ・『流行語の昭和史』 稲垣吉彦 1989年8月6日 読売新聞社
- ・『昭和流行語辞典』 グループ・昭和史探検 1987年10月15日 三一書房
- ・毎日新聞特集『日本語って何だっけ』 1988年1月1日朝刊

〔評〕

世相語を切り口として、言葉の消長の実態を調査した研究である。アンケート及び自らの体験に基づき、実証的に熱心に研究したことを喜びたい。

「知名度」「使用度」「定着度」の三つの観点から、若者（大学生・短大生）と中年層とを比較することにより、最新の若者の言語感覚や社会事象への認識に関して興味ある結果が得られている。

調査項目の②「使ったことがありますか」は、(i)話題として取り上げる (ii)一定の文脈の中で使用し言葉として機能させる (iii)言葉として発話する などいくつかの段階が考えられる。回答者へのより細かい配慮があれば一層適確な調査結果が得られよう。

この論文の主眼である〈定着度〉については、特に「それなりに」「いいとも」「イッキノイッキ！」の三語に注目したい。語形の簡潔さ、語の感覚性、一般語としての普遍性等が定着度の高さの要因と言えよう。

最後に、アンケート集計の労苦をねぎらうと共に、この論文執筆が、鋭敏に時代をつかむ知性と感性を養いかつ自己実現を達成する、その一つの契機になることを願うことにしたい。

(戸田利彦)

<資料>

—世相語についてのアンケート—

比治山女子短期大学国文科二年
久保ひとみ

世相語についての研究資料にしたいので以下のアンケートをお願いします。

①・②・③はどちらかに○を，④は記入して下さい。 男・女（ ）歳

	①知っていますか	②使ったことがありますか	③最近、聞きますか、または、使いますか	④どこで知りましたか 例) ほめ殺し →皇民党事件
1. 記憶にございません	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
2. 落ちこぼれ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
3. 普通の女の子に戻りたい	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
4. なんちゃって	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
5. 窓際族	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
6. ウサギ小屋	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
7. 口裂女	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
8. エガワる	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
9. カラスの勝手	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
10. それなりに	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
11. 熟年	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
12. ハチの一刺し	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
13. ぶりっ子	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
14. ネクラ, ネアカ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
15. 軽薄短小	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
16. 機長!何をするんですか	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
17. 気くばり	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
18. いいとも	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
19. ☉ ☽	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
20. くない族	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
21. イッキ!イッキ!	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
22. 私はコレで会社を辞めました	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
23. プツン	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
24. 新人類	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
25. なんぎやなあ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	

ご協力ありがとうございました。